

平成 29 年度 大阪府立高槻北高等学校 第 3 回学校協議会

1 日 時 : H30 年 2 月 15 日 (木) 16:00~18:00

2 場 所 : 校長室

3 参加者 : 学校協議会委員(敬称略) :

会 長 米津 俊司 (大阪教育大学教授)

委 員 本村 康哲 (関西大学教授)

樽井 弘三 (高槻市立第八中学校校長)

高井 伊知子 (高槻市立奥坂小学校校長)

柏原 泰和 (本校同窓会会長)

小林 紀子 (本校 P T A 会長)

本 校 : 奥谷校長、赤岸事務長、小川教頭、安田首席、相澤首席、
荻野(教務部長)、小林(朗)(進路部長)、坂元 (生徒指導部長)、
山口 (保健部長)、浦久保 (総合調整部長)、高木 (記録)

【 配布資料 】

「第 3 回学校協議会レジュメ」 「委員名簿ならびに本校出席者一覧」

「平成 29 年度 第 2 回学校評価・授業評価」

「平成 29 年度学校経営計画及び学校評価」(案)

「平成 30 年度学校経営計画及び学校評価」(案)

「学校運営協議会について」

◆ 議事録

1 開会宣言 (教頭)

2 開会挨拶 (校長)

3 会長挨拶

4 委員紹介 (参加者自己紹介)

5 学校より報告

(1) 各分掌長より「本年度の学校の取り組みについて」

① 教務

・ 41 期生から新カリキュラムになった。変更の要点について説明。

「総合的な学習の時間」

2 年生 : 教科から人権・進路等を扱う内容に変更 (1 単位)。

3 年生 : 教科から探求科目として教科と連携した内容に変更 (2 単位)。

- ・ 図書の貸し出しが 300 から 600 冊に増えたことを、図書便りなどの取り組みの成果として報告。

② 進路指導部

- ・ 3 年生は、進路指導として奨学金に関する指導を重視している。その成果として新たに導入された「給付型奨学金」を受けることになった生徒が 10 名で、普通より多めに割り当てが得られた。
- ・ 新入生から変わる大学入試テストの、プレテストを本校で実施した。世界史 40 名、数学 80 名 英語の検定試験を受けないと大学の試験も受けられないなど制度が変わっていく。
- ・ 1 年への新たな取り組みとして「R-CAP」（自己分析・適職発見プログラム）を 2 学期初めに行った。生徒も興味を持って取り組み、科目選択にも役立った。

③ 生徒指導部

- ・ 自転車マナー指導を登校時は毎朝、下校時は月 3 回にした。外部からの自転車マナーについてのご指摘は今年度は 20 件ほどに減少した。
- ・ 携帯電話の指導：3 学年ともに昼休みと放課後のみの使用制限とした。

④ 保健部

- ・ 5 月防災訓練は生徒への事前予告なく実施した。避難完了の集合までの時間は予告した年度とほぼ変わりなかった。
- ・ 5 月と 7 月に職員向け AED 救急救命講習をし、ほぼ全教員が参加した。
- ・ 9 月文化祭での献血に約 100 名が協力（年齢制限があり対象は 3 年と教員のみ）
- ・ 職員支援教育研修を 11 月に行った。芝谷中学から支援教育コーディネーターをお招きして合理的配慮についての実際の取り組みを勉強した。

⑤ 総合調整部

- ・ 広報：学校説明会を 11 月（530 名参加）、12 月（400 名参加）に実施した。中学校とも連携して、説明会の時期を検討し、次年度は 2 学期中心に行う。
- ・ ICT：全教室に電子黒板が設置された。教員の活用度合いも大幅に増えた（使用率は約 50%）。

(2) 安田首席より 「平成 29 年度 第 2 回学校評価・授業評価」まとめ

(12 月 13 日に実施したアンケートについて、資料に沿って説明)

6 質疑応答

(米津委員)

- ・ 学校評価のいくつかの項目の目的に関する質問があった。

↓

クラブに入っていない生徒への指導方法を検討するため、未加入の生徒は意外に勉強しているとい

うことや、よく勉強している生徒と勉強していない生徒が 2 極化している可能性もあると分析について説明した

(高井委員)

- ・登下校指導について、毎朝門に立っているの、登下校の指導に重点を置かれているのを感じていること、今年はマナーが良く、保護者も「よくなった」と言っていることを紹介。子どもたちには特に 4 月 5 月にやるのが大事だと思うが、登下校の自転車指導が成果として表れていると意見をいただく。
- ・予告なしの防災訓練について、小学校でも火災、地震、不審者等 1 年に 4 回実施して、順に予告を減らしていることを紹介。また実際は近い人で助け合うことが必要であり、調整は大変だが、それを想定しながら合同で訓練しすることについて案をいただく。
- ・生徒の様子について、挨拶を返してこない気になる子がいる。恥ずかしくてしない子とは違う、気になる生徒がいるが、不登校が増えていると聞いたので、早い時期にそういうことに対応できるシステムが必要だ。小学校なら「不登校・いじめ委員会」をもって、3 日休んだら会議を開く、としている。この地域は「反社会的」ではなく、精神的に崩れていく子が多い地域だ。どういう制度があるか？→各学年に保健部員がいて学年会が週 1 回あり、身体、メンタルに関することが集約される。保健室がカウンセリング室の役割を果たしている。昼休み、放課後に保健室に来る生徒が増えている。養護教諭と担任や保護者が面談している。また月に 1 回スクールカウンセラーが来校。こういった生徒やそのケアについては記録し共有している。

(樽井委員)

- ・統計は、「やや」を省き最高と最低を見ることが必要ではないか。例えば項目 A3 は「やや」を入れると同じだが、入れなければ、1 年、2 年、3 年と順に上がっていく。これを分析しなければいけないのではないか。今後力を入れていかなければいけないポイントになるのでは。
- ・部活動は 1 年から 3 年にかけて平行だ。増えていない。ということは部活動がかならずしも満足度と関わりが強いと言えないのではないか。むしろ、「私は学力向上のために努力した」は上がっている。そう考えると、やはり授業で「ちょっと難しいことがわかる」ということが満足につながる。「主体的対話的で深い学び」といわれるが、経験と知識を結び付けて理解していくような授業改善をしていき、この学校生活の満足度とどの程度リンクしているかを見ていくとよいのではないか。
- ・保護者の「子どもは北高の生活に満足しているようだ」は平行だ。一方生徒の「北高の生活に満足している」は上がっている。保護者が思っている以上に生徒は満足しているということになる。
- ・分析をこの辺に集中してやっていくのがいいのではないか。授業改善をどのようにやっていくか。中学では、部活動に頼るのでなく、「授業」にシフトしていく。

(柏原委員)

- ・アンケートはより良い学校にするためにしていると思うが、98.8%の回答に比べ教員回答数は 83.6%。100%にさせていただいてもいいのでは。このアンケートの意義を認識して自ら回答しようとしてほしい。
- ・高槻は小学校からのグループワークの仕組みを取り入れ表彰された。いいものはどんどん授業に取り入れていく。できない子も楽しい、おもしろいと思う魅力ある授業をどのように作っていくのか、そう

いう環境をどうやって作っていくのか、相互の授業見学を進めてプラスになるといい。

- ・本当に最近感じるのは、他者に対する思いやり、気配りが、だんだん欠除してきている気がする。なぜそれが大事なのか、授業以外でも教えていくことが大事かなと感じる。

(小林委員)

- ・アンケートの回答について、「よく当てはまる」でなく「まあまあ当てはまる」を印していました。
- ・子どもが3年間通っていても、入学式と卒業式しか学校に来ない親御さんもあると思う。もっと通ってもらえる発信があればいいと思う。また、学校からの配布プリントを保護者に渡し忘れたり渡さない生徒もいるようなので、メールマガジンで「こんなプリントを配布しました」という連絡がくれば嬉しい。

(本村委員)

- ・アンケートが、学校評価が目的になっているので、改善するポイントがよくわかる分析を進めていただけるといいと思う。アンケートは仮説に基づき取るとよいので仮説をしっかりと立てることが大切だと思う。
- ・自由記述の回答に気になるものがあるが、全て分析するのは時間、労力がかかるかもしれない。だから質問のしかたを限定してみてもどうか。例えば、先ほど「部活動が本当に満足度につながっているのか」という意見がでた。それがはっきりわかるような設問を設定する。または授業についても満足度の内容がわかるような設問を設定する。
- ・高槻北に通うことで「ここに入ってよかった」と生徒たちが思っていることがわかり、よかった。

7 校長より 次の3項目について

「平成29年度 学校経営計画及び学校評価」(案)

「学校運営協議会について」

「平成30年度 学校経営計画及び学校評価」(案)

- ・平成30年度より、「学校協議会」に変わり、全府立学校に「学校運営協議会」を設置すること、それに伴う変更点として、承認いただく内容について説明し、承認いただいた。

8 まとめ並びに閉会挨拶(校長)